MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network

2016年10月★第119号

今年も好評！ MELONフェスタ

「第21回MELON会員と市民のつどい～ MELONフェスタ～」
日　時：9月17日（土）13：30 ～ 16：00
会　場：エル・パーク仙台6F ギャラリーホール
参加者：110名

会員同士や会員と役員・事務局の交流を目的に開催している恒例のMELONフェスタ。今年はゴスペルグループIsmile（アイスマイル）のミニコンサートで幕を開け、会員企業や部会・プロジェクトによるブース出展、市内4大学による学生サークルのPRタイム、最後はブース表彰式と盛りだくさんの内容でした。会場内は活気にあふれ、来場者同士の楽しそうな会話が聞こえ、新たなつながりが生まれるなど、想定以上の成果が得られました。
（詳細はP2参照）。

にぎわう会場の様子

MELONとは 公益財団法人 みやぎ･環境とくらし･ネットワーク ── 通称『MELON』。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため１人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。
MELON会員特典
- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
- ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
- ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが１個もらえ、５個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
- 年５回の情報紙をお届けします。
- メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。

～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

P1　今年も好評！ MELONフェスタ
P2　MELONフェスタ、楽しい秋の1日となりました！／震災から立ち上がる水の神さまと里浜のくらし～宮城野の水の伝承を探るバスツアー～
P3　バスツアー「環境に優しい住宅の見学会・セミナー in 南三陸」／夏の自然エネルギー講座
P4　「仙台長町紙芝居フェスティバル」で楽しく熱演！かんきょう見聞記―フランスのピクニック―
P5　協同組合からのお知らせ／目指せ100人！環境リレートーク　東梅祐也さん
P6　ストップ温暖化センターみやぎ通信
P7　ストップ温暖化センターみやぎ通信／仙臺農塾～大人の食育プロジェクト～
P8　トピックス／イベント一覧／編集後記

MELONフェスタ、楽しい秋の1日となりました！

ゴスペルグループlsmile

今野勇実行委員長の挨拶とMELON第5期事業報告に続き、オープニングはゴスペルグループlsmile（アイスマイル）のコンサート。素晴らしく伸びる歌声にみなさん聞き惚れていました。

学生サークルPRタイムでは、環境に関する取り組みを行っている4つの大学サークルが出演し、映像や寸劇などそれぞれ工夫をこらした活動発表が好評でした。

会場内では、MELONの会員企業有志および部会・プロジェクトと学生サークルがブース出展し、来場者に良いと思ったブースを投票してもらい、それぞれトップの票を得たブースを表彰しました。また、理事長が独断で表彰する理事長賞も発表され、大いに盛り上がりました。

学生サークルPRタイム
「たんぽぽ」の寸劇

◆**ブース表彰者（カッコ内は賞品提供企業）**
会員企業および部会・プロジェクト部門：
みやぎ里山応援団（株式会社サイコー）
学生部門：
尚絅学院大学・環境活動サークルFROGS（みやぎ生活協同組合）

◆**理事長賞（賞品提供：長谷川公一理事長）**
中山朋子さん（旧姓:廣重）：
自然農場 風天、食部会・みやぎ里山応援団メンバー、元事務局員

来場者からは「楽しくてあっという間でした。楽しみながら環境のためになることをできたらいいと思いました。」「学生サークルの環境活動がしっかりしていて感激でした。」など嬉しい感想がたくさんありました。来年に向けて改善点を確認しながら内容を再検討していきます！

＜出展会員企業＆出演・出展学生サークル＞
株式会社サイコー、みやぎ生活協同組合、環境活動サークルFROGS（尚絅学院大学）、環境サークルたんぽぽ（東北工業大学）、環境サークルEVOL（東北福祉大学）、ART STANDARD.（宮城大学）

震災から立ち上がる水の神さまと里浜のくらし ～宮城野の水の伝承を探るバスツアー～

日　時：9月25日（日）10：00～15：00
見学先：1．浪分（なみわけ）神社（仙台市若林区霞目）
2．五柱（ごちゅう）神社（仙台市若林区藤塚）
現地ガイド：東海林義一さん
（藤塚町内会長、五柱神社氏子総代）
3．八大龍王碑（仙台市若林区荒浜）
現地ガイド：貴田喜一さん
（荒浜再生を願う会）
4．高砂神社（仙台市宮城野区蒲生町）
ガイド：篠原富雄さん（MELON水部会メンバー）
参加者：19名

仙台市にある宮城野海岸平野は、水はけが悪い広大な湿地帯のため開発が遅れました。古くより広瀬川や名取川の氾濫に悩まされるとともに、津波の被害を受けてきたところでもあります。それだけに、地域の人々の願いを託した水の神さまとさまざまな伝承を残してきました。今回、仙台市沿岸部の水の神さまを祀る神社等を巡り、その伝承を探るとともに、復興にともなう課題について考えました。

400年以上の歴史がある五柱神社のある藤塚地区は約100世帯、八大龍王碑のある荒浜地区は約700世帯あり、神社とともに里浜のくらしを営んできました。それが、東日本大震災により災害危険区域に指定され、ふるさとを離れ移住を余儀なくされています。それでもこの地に住み、生きてきた証を残すべく神社と地域コミュニティの再建に取り組んでいます。「荒浜再生を願う会」の貴田さんは「この場所が落ち着く。前の形を取り戻したい。」と、自宅跡地に里浜ロッジを建て、訪れた人々の憩いの場として提供しています。

漁民の神さまとして信仰されていた
「高砂神社」も鳥居が再建されました

水の伝承と地元の人々の力強い思いに触れ、地域復興についても改めて考える機会となりました。

「荒浜再生を願う会」
代表の貴田喜一さん

「2016年度まちづくり人応援助成金」を活用して開催しました。

バスツアー
「環境に優しい住宅の見学会・セミナー in 南三陸」

日　　時：8月20日（土）8：00～18：30
見学場所：南三陸町の山林、丸平木材株式会社、
　　南三陸まかべ工法の家
参 加 者：51名

南三陸町で、地域の特産である「南三陸杉」を生かした家づくりと、環境に優しい住宅の普及を目指すための見学会とセミナーを開催しました。移動中のバス内の勉強会では南三陸杉の歴史や、国際認証のFCSに認定された経緯など、南三陸森林組合の佐藤久一郎さんからお話を聞きました。山林の見学では、森林整備をしている株式会社佐久の佐藤太一さんからお話を伺いました。森林の整備をすることによって土砂崩れなどを防ぐ強固な土壌が育まれるそうです。次に行った製材所の丸平木材株式会社では、低温で乾燥させることにより、木が本来持っている防虫効果が長く持続し、家が建った後も長持ちしやすくなる加工工程を見学しました。

南三陸杉は、
地質により目が詰まって
堅いのが特徴です

南三陸材を使用した
「南三陸まかべ工法の家」

セミナー会場である「南三陸まかべ工法の家」は、南三陸材が使用されており、木の良い香りがする中、各講師よりお話を聞きました。地元の木材資源を活用することが地域の自然や産業、住民の健康を支えること。災害に備えて、太陽光発電と蓄電池を組み合わせる大切さ。薪ストーブやペレットストーブを設置することで森林資源を活用し、省エネを進めることなど。参加者は、南三陸で林業に関わっている方の収入や、南三陸材の流通に興味を持ち、熱心に質問していました。今後、町役場や道の駅で南三陸材が多く使用される予定です。多くの参加者が南三陸杉の良さを知り、今後住宅などを建設する際の参考になったようでした。

南三陸木の家互助会の会長
後藤一磨さんが木の家の良さを熱弁

夏の自然エネルギー講座
「親子でソーラーカーをつくろう！」＆「ソーラーランタンづくり」

●7月23日（土）みやぎ生協文化会館「ウィズ」（42名）
●8月 7日（日）みやぎ生協太子堂店　集会室（12名）
●8月 9日（火）せんだい環境学習館
　　たまきさんサロン（70名）
●8月20日（土）亘理中央市民センター（31名）
●9月 4日（日）角田市スペースタワー・
　　コスモハウス（80名）
※（　）内は参加者数

自然エネルギーについて楽しく学んでもらうため、夏休み時期に親子を対象とした太陽光発電講座を開催しました。自然エネルギー○×クイズでは、省エネルギーや地球温暖化に関する問題を出題しました。全問正解者が続出し、景品のうちわをもらって子どもたちは大喜び。太陽光パネルを利用したソーラーカー作りでは、普段仕事で忙しいお父さんが頑張っていました！ソーラーランタン作りでは、使用済みのペットボトルをランタンの容器にリメイク。マスキングテープやビーズ、サインペンで保護者と楽しく作っていたのが印象的でした。

太陽光で光るソーラーランタン、
かわいく飾りつけてにっこり！

ソーラーランタン作りは今年から始めた新しい講座。太陽光で発電した電気を、小さなボタン電池に蓄電し、暗くなるとセンサーで点灯するものです。曇りの日や夜でも楽しむことができます。

「仙台長町紙芝居フェスティバル」で楽しく熱演！

日　時：9月3日（土）10：30～15：00
場　所：たいはっくる、長町笹谷街道周辺
　　（MELONの上演場所：石田酒店）
主　催：仙台長町紙芝居フェスティバル実行委員会、
　　長町まざらいん

紙芝居の活動を行っている団体が協力し、長町の笹谷街道周辺6箇所で同時に紙芝居を上演するという町興しイベント。紙芝居は、読むのが上手すぎて観客が読み手ばかりを見て、紙芝居の絵に目がいかないようでは「上手」とは言えないそうです。

総勢5名で登場人物を楽しく演じ分けることができました♪

MELONでは環境紙芝居を2作品上演しました。「ありがとうごはんつぶマン」は、ごはんを残さず食べよう、ものを大切にしようというメッセージが込められている紙芝居。「スイッチ忍者」はつけっぱなしの電気のスイッチを消して回る忍者のお話。手裏剣でスイッチを消すシーンでは折り紙の手裏剣を投げ、飛び道具に子どもたちも大喜び。NPO法人劇団仙台小劇場と交互に上演し、たくさんの子どもたちや親子連れ、近所のご年配の方に楽しんでもらえました。

ファイナルステージでは全団体で「ずんだ餅の好きな鬼」を上演！

紙芝居自体が久しぶりという子どもたちも多く、環境紙芝居というアナログ媒体で情報発信活動をすることの大切さを感じました。他の上演箇所では子どもたちが自分たちで上演するという様子も見られ、町興しイベントとして地域との交流がより活発になったようです。

一緒に紙芝居を上演してくれるボランティアを募集しています。興味のある方はMELON事務局までご連絡ください。

フランスのピクニック

落語篇②
「長屋の花見」
石垣政裕（MELON理事）

フランスで、使い捨てのプラスチック製の容器や食器を禁止する法律が作られ2020年から施行されるらしいのです。そう聞けば「あんなに美味しいお菓子や料理を作る国で？フランス映画に出てきそうな丘の上のピクニックはどうするの？」と思われる方も多いでしょう。フランスではプラスチック容器や食器のリサイクル率が1パーセントなのだそうです。日本だったら「リサイクル率がこんな高さです！」と反対するでしょうね、たぶん。これからリサイクルのインフラを作るのはコストがかかる、それよりはやめてしまった方が『食文化』追求になるということなのでしょうか。

たぶん、フランスではピクニックのあり方が変わるかも知れません。そこでっ！日本の代表的な野外パーティ（といっていいかどうかは別にして）「お花見」を語り聞かせる、1966年東宝演芸場で録音された、5代目柳家小さんの「長屋の花見」（企画製作：東宝ミュージック株式会社、販売：ユーキャンクラブ、ザ・ベリー・ベスト・オブ落語第14巻）を聞いてみましょう。

貧乏長屋の一同が大家さんから花見の招待をうける。家賃さえ払わない「店子（たなこ）」たちは、ご馳走と酒がタダでいただけるというので半信半疑でも上野の山へ行こうじゃないかということになる。なにしろ招待とはいっても貧乏長屋。重箱の中の卵焼きとかまぼこは、沢庵（黄色）と大根のコウコ（白）だという。そうか沢庵というのは黄色の大根漬けなんだ。酒は番茶の煮出しで、色を似せるために水で薄めたもの。それをもって花見に出かけたのだから意気が上がらない。小さんの演ずるその会話が実に面白い。小さんの演技は少し硬いかなと思っていましたが、実にリズムがあり、会話の面白さを聞かせてくれます。

江戸の落語に登場してくる男たちは「見栄っ張りで、それが『粋』だと思ってるのが特徴」とある放送作家がラジオで語っていました。でも、そもそも花見なんてみんなでわいわいやるところに楽しみがあるのだから、沢庵と番茶でもいいのかも知れないと納得してしまいます。さて、アメリカ型の大量消費のプラスチック食器を使う文化とは違う「粋」な「ピクニック文化」がフランスで生まれるのでしょうか。

各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

～みやぎ生活協同組合～

風力発電が稼働します

みやぎ生協は、原子力発電所の廃止と再生可能エネルギーを中心とした政策への転換を国に求めるとともに、省電力と再生可能エネルギーの活用をすすめています。その具体化として、いわて生協、コープあきた、他3つの会社が「コープ東北クリーンエネルギー株式会社」に共同出資する形で風力発電事業を行い、3基の建設を進め、10月から営業運転を開始します。年間の発電量（見込み）は3基合計1,650万kwhで約4,500世帯分の年間使用量に相当します。3基中2基がみやぎ生協分となることから愛称を募集し、「風のめぐみ」と「風のつばさ」に決定しました。皆様に親しまれる風車として、秋田の空で元気良く回ってくれることでしょう。

～宮城県農業協同組合中央会～

牛乳パック回収運動のリ・スタート

JAみやぎ女性組織協議会は、1991年より牛乳パックの回収運動に取り組んでおり、今年8月、「環境を守る活動」および「健康を守る活動」の一環として、『牛乳パック回収運動』をリ・スタートさせました。①エーコープ店での牛乳購入、②店舗での回収、③リサイクル製品（トイレット・ロール等）の購入を進めるとともに、乳和食教室や牛乳パックを利用したクラフト教室の開催等を促進し、環境や健康を守る観点からJA女性組織活動を活性化させることがねらいです。県下18店舗のエーコープの協力を得て、店頭の回収ボックスにステッカーを貼付し、JA女性部員や一般の買物客に回収運動とJA女性組織活動への参加を呼び掛けています。

目指せ100人！
環境リレートーク

第62人目の執筆者
東梅　祐也さん
（特定非営利活動法人
ＳＴＥＬＡ 理事長）

ＳＴＥＬＡは石巻市で風力発電事業を行うことを目指しているNPO法人です。震災後の2012年、平均年齢27歳の若者が10名ほど集まって活動が始まりました。原発事故に温暖化と、大きな問題が未来を暗くしてしまう中、目を背けるのではなくて自分たちにできることを探してやってみよう。最初はそんな小さな気持ちの集まりでした。

プロジェクトの形としては、大企業が資本をどんどん投下して開発するのではなく、その地域の住民が中心となって事業に出資し、事業を通してお金と利益が還元される市民出資という手法で進めたいと考えています。メンバーは現在40名ほどで、さまざまなバックグラウンドを持った一般市民で構成されています。

活動ももうすぐ4年目。風況や周囲の環境データなどが揃い、実現に向けて一歩ずつステップを踏んでいるところです。フェイスブックなどを通して活動報告を行っていますので、お気軽にご連絡やイベントへの参加などしていただけたら嬉しいです。

街や地球のこと、そして次世代の子ども達のことを思う優しい気持ちが集った風車が建つ日を夢見て頑張ります。

＜連絡先＞
〒980-0003
事務局：宮城県仙台市青葉区小田原8丁目5－14
シティハイツ小田原201号
メールアドレス：npostela@gmail.com
ホームページ：npostela.com

… 次号執筆者紹介 …
浦井彰さん
（エネシフみやぎ　代表）

ストップ温暖化センターみやぎ通信　Vol.74

国がなくなる？！～キリバス共和国と地球温暖化～　環境出前講話実施中

「キリバス共和国」という国を知っていますか？太平洋に浮かぶ、とても遠くて、とても小さい国。世界で一番早く朝を迎える、とても美しい国です。そんなキリバス共和国は、今、国がなくなる危機に瀕しています。その原因は「地球温暖化」。そんなキリバスの現状と地球温暖化について伝えるため、環境省「地域における地球温暖化防止活動促進事業」を活用し、キリバス環境出前講話の講師派遣事業を実施しています。

講師は、ケンタロ・オノさん（キリバス共和国名誉領事館名誉領事・大使顧問、仙台市出身・在住）。小中高校、大学生、社会人まで幅広い対象に合わせ、美しい写真とともに分かりやすく、一方でシビアな現実も語ります。「キリバスのCO_2排出量は世界の下から2番目。でも温暖化の影響を真っ先に受けています。」と語るオノさん。キリバスでも過去に類を見ない気象災害に見舞われ、海岸浸食や道路が壊れるなどの損害を受けています。他国への移住の検討も始まっているそうです。

キリバス共和国の位置
（提供：キリバス名誉領事館）

地球温暖化を防ぐために「私たちに何ができるのか」。真剣に取り組むときが来ています。

小学校での講話。オノさんはキリバスの民族衣装を着ています

出張！うちエコ診断！！

今年度も実施しているうちエコ診断は診断形式が4つあります。その中の一つ「会場診断」は、さまざまなイベント会場に診断士が赴いて診断を行います。8月は「せんだいE－Actionイベント」や「わたり環境フォーラム」、9月は「イオン仙台中山店」、10月は「りふ環境まるごとフェア」、「角田環境フェスティバル」、「まつりだよ！泉区中央！」などなど宮城県内各地でうちエコ診断を実施してきました。会場では子どもも一緒になって診断士の話を聞いている姿もありました。ぜひ、家族みんなで省エネに実践してほしいですね。

11月は5日「石巻市環境フェア2016」、12日「おおさき環境フェア2016」に出張します。「うちエコ診断」と書かれた黄色いのぼりが目印です。見かけた方はぜひ、お立ち寄りください。省エネ対策のエキスパート、うちエコ診断士があなたのライフスタイルに合わせた対策をご提案します！

8月20日わたり環境フォーラムの様子

うちエコ診断実施中！（診断無料）

実施期間：2016年6月1日～ 2017年2月中旬
実施件数：200件（定員に達し次第締切）
申込み・問合せ先：
ストップ温暖化センターみやぎ
（022-301-9145）まで

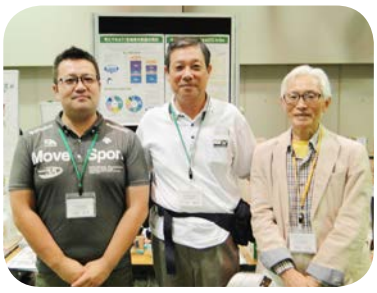
※ウェブで簡単に申込が可能です。
「家庭エコ診断制度」で検索！

推進員だより No.22

MELONフェスタでも大活躍！

日時：9月17日（土）13：30～16：00
会場：エル・パーク仙台6階　ギャラリーホール
内容：〇〇（まるまる）ボックス、
　　ぬいぐるみ型手回し発電機、
　　CO_2排出量ランキングゲーム、アンケート等
活動した推進員：小室正博さん、佐々木義朗さん、
　　鈴木紀造さん

MELONフェスタのストップ温暖化センターみやぎブースでは、昨年度までに推進員が作成したグッズ等を展示し紹介をしました。テーマに沿ってたくさんのボックスを並べたり、積み重ねたりと、さまざまなアクションで遊びながら環境問題について学習できる「〇〇ボックス」など、今回紹介したグッズは今後もいろいろなところで活躍する予定です！当日は推進員がブーススタッフとなり、環境省が行っている温暖化防止に関する国民運動「COOL CHOICE」の賛同用紙や省エネ行動アンケートを積極的に集めてくれました。


ブースの前で記念撮影♪

仙臺農塾　大人の食育プロジェクト

第10回　大人の遠足・鳴子編
「鳴子の休日～地大豆湯治と漆器づくりに学ぶ食と器～」
日　時：6月19日（日）10：00～15：45
会　場：川渡（かわたび）地区の大豆圃場、百年ゆ宿旅館大沼、
　　山ふところの宿みやま、漆器工房「瀾（らん）」
ゲスト：小野寺公夫さん（鳴子漆器塗り師）
参加者：13名

仙臺農塾Vol.4の最後は、本年5月に環境省から「国民保養温泉地」に指定されたばかりの大崎市鳴子温泉郷を訪れました。観光客を巻き込みながら農業バカンスを実践している旅館大沼の協力を得て、大豆の植え込みと温泉でのリフレッシュを組み合わせた地大豆湯治に挑戦。荒れたままの遊休農地を開墾しなおしたという畑で植え込みを行い、皆で旬の桑の実をつまみながら、楽しく汗を流しました。順調にいくと夏には一面青々とした大豆の葉が圃場全体に繁るそうですが、農作業を体験した参加者も途中で雑草に負けずにすくすくと成長するよう、この先の行方が気にかかったようです。

1つひとつの種を畝ごとに
丹念に植え込みました

木の香りが漂う落ち着いたたたずまいが魅力の山ふところの宿みやまでは、里で採れた地元食材をメインとする昼食をいただきました。ゆきむすびのおにぎり、フキの煮物、シソ巻き、ナスの田楽、クルミ豆腐、なるこりんの野菜シャーベット等々。豊かな自然環境に抱かれたその土地ならではの里の恵みを実感するご馳走でした。盛り付けには、鳴子漆器を使用しています。料理が引き立ち、食器としての実用性も兼ね備え、クオリティは実に素晴らしいものがあります。

その後、小野寺公夫さんより郷土が誇るべき伝統的工芸品の一つである鳴子漆器について学び、産地の歴史的系譜や現状、漆器づくりにかける情熱や思いなどをお聞きました。とりわけ小野寺さんが力を注いでいるのが、器の形になった状態から漆を塗るまでの「下地」と呼ばれる工程。この点がしっかりできているかどうかは、器として長く使い続けていく上で極めて重要だそうです。正統的な技法にこだわりつつ、確かな製品をつくるために膨大な手間と時間を惜しまない愚直な姿勢こそ美しく、使いやすい漆器づくりに欠かせないものだということを学びました。

日常の喧騒を忘れてゆったりと流れる時間の中、適度に身体を動かしたり、鳴子漆器の食器としての良さを直に学ぶなど、盛りだくさんのメニューを通して鳴子そのものの「奥深さ」をたくさん吸収できた遠足となりました。

丸盆、酒器、ひめ小鉢など、
見事な仕上がりの鳴子漆器
【漆器工房「瀾」】

大人の食育プロジェクトが、5シーズン目に入りました♥

仙臺農塾

毎回テーマを変えながら食のプロフェッショナルをゲストに招いて、合計10のテーマで講座を開催した仙臺農塾Vol.4が、6月「鳴子の遠足」で幕を下ろしました。ゲストと参加者の交流はもちろんのこと、参加者同士での交流も多くみられ、新たな出会いもあったのではないでしょうか。

9月から、次のシーズンである仙臺農塾Vol.5が幕を上げました！未定な部分もありますが、一足先に講座一覧を紹介します！

- 9月「肥料を使わずに育つ？！自然農法の世界」
- 10月「自然に寄り添うお米作り ～土と植物と、あとは人の手間だけ～」
- 11月「宮城の農産物を語ろう ～在来作物から最近の農産物事情まで～」

2017年

- 2月「はちみつができるまでを聞いてみよう」
- 4月「美味しいハムの選び方」
- 5月「日本食の基本　出汁、削りの旨味 ～意外と種類があるんです～」
- 6月「山の恵みと保存食 ～人の知恵が生んだ美味しさのひみつ～」

第2回の10月は、MELONが実行委員会に所属し、今期新たな活動として取り組んでいる「オーガニック・ウィーク・センダイ2016」に関連した講座となります。気になる方は、以下のWEBページをご覧ください！

http://www.organicweek.info/

※オーガニック・ウィーク・センダイ2016とは
「有機食品」をより多くの人に知ってもらうことを目的に、有機農業やオーガニックなライフスタイルに関連する取り組みを呼びかけていく広報キャンペーンです。

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

10/26（水）	仙臺農塾 Vol.5 第２回「自然に寄り添うお米作り～土と植物と、あとは人の手間だけ～」
10/26（水）～11/6（日）	「オーガニック・ウィーク・センダイ 2016」実施
10/30（日）	「おおがわら環境フェア」にブース出展
11/5（土）	「石巻市環境フェア」にブース出展
11/12（土）	「大崎市環境フェスティバル」にブース出展
11/15（火）	自然エネルギー等普及プロジェクト　例会
11/30（水）	仙臺農塾 Vol.5 第３回「宮城の農産物を語ろう ～在来作物から最近の農産物事情まで～」開催
12/3（土）	水部会　例会
12/6（火）	食部会　例会
12/11（日）	「環境フォーラムせんだい 2016」にブース出展
12/13（火）	MELONcafe 企画部　例会
12/18（日）	MELONcafe プチ講座「リメイクキャンドル作り」開催

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

編集後記

■秋も深まり涼しくなってきました。毎年思いますが、だんだん日が短くなって涼しくなってくるとなんとなく寂しくなりますね。（暑さに弱いけど夏が好きな小林）

■今年も夏の暑さ対策にベランダにゴーヤのカーテンを育てました。遅めに種をまいたので涼しくなった9月に一番茂りました。来年はもう1か月早くまくようにします（笑）（菅田）

■あの東日本大震災から5年半が経ちました。震災復興に莫大な予算が投じられましたが、一人ひとりの被災者に目を移すと生活再建は道半ばというケースが数多く散見されます。困難な事情を抱えた方には、より丁寧な福祉的サポートと伴走者が欠かせません。（玉澤）

〈会員状況〉

	653 名
法人	67
任意団体	11
個人	575

2016 年 9 月 30 日現在

ボランティアポイントカード制度をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1 ポイント差し上げます。5 つ貯まると 1,000 円分の MELON 協力商品券と交換できます。

MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用になれます。

発行元　公益財団法人　みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）Miyagi Environmental Life Out-reach Network
〒 981-0933　仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台 5F
★事務局　TEL 022-276-5118　FAX 022-219-5713
★情報センター　TEL 022-301-9146　FAX 022-219-5713
★ストップ温暖化センターみやぎ　TEL 022-301-9145　FAX 022-219-5710
E-mail　melon@miyagi.jpn.org　URL http://www.melon.or.jp/melon/
落丁・乱丁の場合は、MELON 事務局までご連絡ください。

この印刷物は、輸送マイレージ低減による CO_2 削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。
RICE INK ®
※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。